

他にも

37 「西灘」と呼ばれる名産地 日本酒

明治時代、明石は神戸の灘五郷に対して「西灘」と呼ばれる酒造りの一大生産地でした。明石で酒造りが盛んな要因は、「寺水」と呼ばれる質のいい水が豊富に湧いていること。この水が、今も明石の酒造りを支えています。

プレゼント
明石の地酒



日本酒造りが生んだ「一升瓶」

明治32(1899)年、他に先駆けて大久保町西島の酒造会社が、一升瓶入りの日本酒を売り出しました。当時の日本酒は樽ととっくりを使った量り売りだったのですが、品質保持や偽造品対策のため、自社に製造工場を構え、日本で初めて作ったのが明石の会社です。

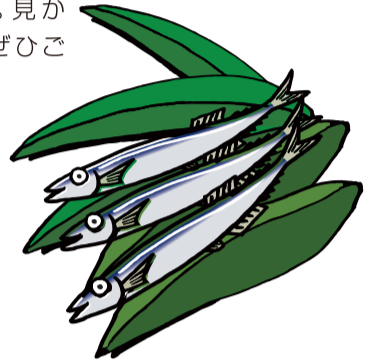
38 どうして母の日だけ？ 父の日発祥の地

昭和26(1951)年、幼稚園児から「母の日があるのになぜ父の日はないの?」と聞かれた明石連合婦人会の会長が、父の日表彰行事を行うようになりました。諸説はありますが、これをきっかけに、昭和28(1953)年、兵庫県連合婦人会で父の日が制定され、それが全国に広まったといわれています。



39 サンマは明石で獲れませんが サンマの開き

明石が、サンマの開きの技術、加工量で全国トップクラスなのをご存知でしょうか。もともとは、イワシの加工品を生産していた工場が、イワシが獲れなくなったことがきっかけで、北海道や東北の冷凍サンマを明石に集め、加工するようになったことが始まりです。一匹ずついねいに開き、「灰干し加工」といわれる方法で乾燥させた明石産サンマの開き。見かけたらぜひご賞味を。



プラス

東経135度子午線が通る 時のまち明石

明治21(1888)年1月1日、東経135度子午線が通る明石が、「日本標準時のまち」になりました。それ以来「時のまち明石」として、全国に知られています。

時のまち明石を彩る 子午線標柱

明石のシンボル「天文科学館」は、東経135度上に建っており、日本標準時子午線を示す標識にもなっています。子午線上には、他にもさまざまな標識や標柱があります。最も古いものが、明治43(1910)年に建てられた「大日本中央標準時子午線通過地標識(天文町・写真右)」。当時の小学校の先生たちがお金を出し合い建設しました。天文科学館の北側の人丸山には、昭和5(1930)年に上部にトンボが乗ったユニークな子午線標識(写真中)が建てられました。SF漫画作家とし有名な松本零士さんが、5歳のころにこの標識を見て、宇宙に興味を持つきっかけになったともいわれています。その他に、日本でここだけの駅ホームに描かれた子午線標識(山陽電車人丸前駅)や、その名の通り、東経135度日本標準時子午線上に建つ子午線郵便局(写真左)などユニークな子午線標識があります。



時のまちのキャラクターたち

時のまち明石をPRするキャラクター「時のわらし」と「軌道星隊シゴセンジャー」が大人気です。

明石の歴史を自由に飛び回る 「時のわらし」

明治21(1888)年1月1日(日本標準時が定められた日)に生まれた時の妖精。古時計の中に住み、明石の時間を見守り続けています。背中にトンボの絵が描いてある赤いちゃんちゃんこがトレードマークです。

プレゼント
時のわらし
絵はがき



ご当地ヒーローといえば 軌道星隊シゴセンジャーとブラック星博士

時を守るヒーロー。それが軌道星隊シゴセンジャーです。ブルーとレッドに続き、昨年からはピンクとイエローが登場し、4人で活躍しています。天文科学館の特別行事やプラネタリウム番組に登場し、寒いダジャレを連発しながら時間を乱すブラック星博士と日夜戦っています。

プレゼント
シゴセンジャー
グッズなど



時計を持たずに外出可能? まちにあふれる日時計

太陽の動きで時間を計る、最も原始的で単純な時計「日時計」。市内には、時のまちにふさわしく、デザインも個性的なものばかり。晴れた日は時計なしで明石のまちを散策してみても?



魚住市民センター



明石上ノ丸教会



明石公園



西部文化会館



石ヶ谷公園



中崎遊園地